

調査研修報告書①(議員用)

報告者：藤原洋二

実施場所：ひろしまブランドショプTAU及び衆議院第一議員会館 (東京都中央区銀座1-6-10及び東京都千代田区永田町2-2-1)	実施日：5月23日から24日
■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など) ①広島県のアンテナショップである「TAU」の運営状況と本県の状況や本市の取扱商品などを調査することを目的とする。 ②本市の地理的条件によるテレビの難視対策として設置されている共同受信施設について、耐用年数を超過している施設が多く管理に苦慮していることから、担当省庁に対応や対策及び今後の整備方針を調査することを目的とする。	
■参考とすべき事項 第1日目(5/23) 広島県アンテナショップTAU ・本市からの出品している商品の販売実績が気になった。 ・イベント合間のタイミングであることから客足も気になるが、来訪者と話すとき三次市からの訪問者であった。広島県のゆかりの方が多いのか。 ・以前、売り上げナンバーワンと聞いた「八朔大福」は見当たらなかったが、本市を代表する商品開発が急務であることを痛感した。必要なのは、イメージアップするような「食味・見栄え、パッケージなどの新商品開発」なのか。懐かしい「乳団子や田総羊羹」なのかと考えさせられた。 第2日目(5/24) 衆議院第一議員会館(主に総務省情報流通行政局地上放送課) 調査項目については別紙のとおりであるが、現行の自主共聴施設(市内に約240施設)では補助事業の事業主体となることが出来ず、市町村の連携団体として「法人」となることが必要であるが、人口減少により弱体化している管理組織では限界を感じた。今後は、市町村が事業主体となって補助金を受け、過疎・辺地債を活用する手法しかないことが明らかになったが、次世代通信技術を活用することや市内に整備されている光ケーブルを活用した方法も模索する必要がある。 ■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など) 第1日目(5/23) 以前、売り上げナンバーワンと聞いた「八朔大福」は見当たらなかったが、本市を代表する商品開発が急務であることを痛感した。 必要なのは、イメージアップできるような「味・見栄え、パッケージ等の新商品開発」なのか、あるいは懐かしい「乳団子や田総羊羹」なのだろうかと思わせられたが、ターゲットについての検証も必要であると感じた。 第2日目(5/24) 総務省メニュー「共聴施設ネットワーク強靱化支援事業(R3～R4)」により、ヘッドエンドや伝送路施設などを補助対象(1/2)とした老朽化が進んだ共聴施設の強靱化を対象とした事業メニューが実施されていたが、事業主体の関係や地域防災計画に位置付けられていることが主な補助対象条件であった。よって、体力のある自主共聴施設が自力で整備するか、市が取組む以外に共聴施設を整備する方法は無く、耐用年数が超過した老朽化施設の維持管理については早急の対応が急務である。要望書を提出している本市の対応の無さも危惧される。	